

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百六十三)

第六章 現代イスラームテロの系譜 (十八)

百六十三 敵と味方を峻別する一神教 (二一六)



このような過激な反応は一神教特有のものである。ギリシヤ神話、日本神道或いは仏教のような多神教（仏教を多神教と見るかどうかは異論があるうが、キリスト教やイスラームのような一神教と異なることは間違いない）では、善と悪、神と悪魔は自らの心の中に共存していると教える。ここでは敵と味方の闘争はあっても、それは決して正義と悪の対決、神の代理人と悪魔の代理人の対決ではない。

敵と味方を正義と悪、神と悪魔で峻別する一神教の世界で敵と味方に分かれるケースは三つ考えられる。一つは異なる宗教との対決（異教対決）、二つ目は宗派の違いによる対決（宗派対決）、そして三つ目は同じ宗派の中の正統派と異端派の対決（異端対決）である。そしてそれぞれ対決のなかでテロが発生する。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakazuyal@gmail.com](mailto:Arehakazuyal@gmail.com)